絆

KIZUNA

2023 AUGUST

JAグループ青森 月刊広報誌［920号］

8

作品募集中！

第42回 青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール

応募締切
令和５年８月31日(木)必着

令和４年度 第41回青森県コンクール
青森県知事賞受賞作品
「ドライブではいつもおにぎり」
八戸市立西白山台小学校
３年　田村　唯　さん

★応募規格★

作文部門

- 1部（小学１年生～３年生）
〈400字詰め市販原稿用紙２枚以内または
マス目の大きい原稿用紙で800字以内〉
- 2部（小学４年生～６年生）
〈400字詰め市販原稿用紙３枚以内〉
- 3部（中学１年生～３年生）
〈400字詰め市販原稿用紙４枚以内〉

図画部門

- 1部（小学１年生～３年生）
- 2部（小学４年生～６年生）
- 3部（中学１年生～３年生）

〈B3判（36.4cm×51.5cm）相当の市販画用紙〉

※画材に制限はありません。
※標語やキャッチフレーズ文字が入った作品は応募できません。

お米・ごはん食に
関しての思い出や
考えたことなどを
素直な気持ちで
自由に表現
してみてね！

送り先
JA青森中央会または
お近くのJAに
送付ください。

みんなの
よい食プロジェクト

JA共済の地域貢献活動

JA青森中央会　農業対策部　組織農政課
TEL:017-729-8760　FAX:017-729-8775
HP:https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/

巻頭言

食料安全保障の強化と国民理解の醸成に向けて
～食料・農業・農村基本法の見直しをめぐる情勢について～

食料・農業・農村基本法の見直しをめぐり、政府・与党が昨年の９月から検討をすすめるなか、ＪＡグループでは、意思反映のため２回の組織討議を実施し、生産現場の意見をふまえた政策提案をとりまとめ、全国大会の開催や国会議員等への要請などの働きかけを行ってきました。

その結果、５月29日に決定した農水省基本法検証部会の「中間取りまとめ」や、６月２日に策定された政府の「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」において、ほぼ全ての項目でＪＡグループの政策提案が反映されました。

今後は、基本法の条文や関連法案の見直し、関連対策の具体化に向けて、重要な局面が続いていくことになり、引き続き、ＪＡグループの意思反映のため、政府・与党の動向を踏まえ働きかけを展開していくこととしております。

ＪＡグループの政策提案では、①食料安全保障の強化、②再生産に配慮した適正な価格形成の実現と国民理解の醸成・行動変容、③農業の持続可能な発展に関する施策、④農村の活性化と都市農業の振興、⑤ＪＡなど関係団体の役割強化の５つのポイントが掲げられております。

特に、食料安全保障の強化では、「平時」を含む「食料安全保障の強化」を基本法の目的として明確に位置づけるとともに、食料安全保障の状況を適切かつ定期的に評価する仕組みの構築や政府全体で対応しうる体制を整備することが求められております。

また、再生産に配慮した適正な価格形成の実現では、持続可能な農業の実現に向け、適正な価格形成の実現を意識した「農業の再生産に配慮した適正な価格」とすること、食料安全保障の観点から、海外の取り組みなどを参考に、再生産に配慮した適正な価格形成の仕組みについて、早急に具体化をはかることが求められております。

そのため、国民理解の醸成も不可欠であります。ＪＡグループでは、令和４年度より「国消国産」ＪＡグループ統一運動をすすめており、令和５年度においても、10月16日の「国消国産の日」を基点に10月から11月を国消国産月間として運動を展開していくこととしております。

本県においても、県段階では10月16日に『国消国産の日イベント「みんなで知ろう！国消国産」』を青森市内で実施するなど、国消国産月間を通じて様々な取り組みを展開していくこととしております。また、県内ＪＡでは「ＪＡまつり」などで国消国産ＰＲ活動を展開する予定となっており、ＪＡグループ青森が連携して情報発信に取り組むこととしております。

ＪＡ青森中央会

絆 8 KIZUNA

目次
CONTENTS

巻頭言 …… 1
フラッシュ …… 2
インフォメーション …… 4
東北農政局通信あおもり …… 12
経営の窓口 …… 13
実践農業者支援 …… 16
組織農政通信 …… 18
ＪＡつがる弘前ＮＥＷＳ …… 20
輝き・すすめ！ SDGs …… 21
誉（ほまれ）・ＪＡ人の動き …… 22

表紙の写真：新・農のある風景 ～其の89～　ときわにんにく収穫（ＪＡ津軽みらい）

詳細はこちら

国産を選ぶ。それは、未来へつながるお買い物。

『国民が必要として消費する食料は、できるだけその国で生産する』。この考え方を「国消国産（こくしょうこくさん）」といいます。これは、私たちの何気ない日常を彩り、生活を支えてくれる豊かな「食」を明日へつないでいくために、一人ひとりがきちんと向き合い、考えなくてはいけない重要なテーマだと、JAグループは考えています。

日本の食料自給率は依然として過去最低水準です。もし、世界的な気候変動や人口増加による食料不足で、様々な国が輸出を制限してしまったら、私たちの食生活はどうなってしまうでしょう。日本の農業は、担い手の高齢化・減少が進み、耕されず荒れてしまった農地が増えています。農畜産物は短期間で生産を増やすことが難しく、一度荒れた農地を再び生産できる状態に戻すには、長い時間と大変な労力が必要です。さらに、農業・農村には、洪水等の災害から街を守り、多様な生き物の住み家になるなど、食べ物を生み出すほかに多くの役割がありますが、これらの役割を維持することも難しくなってきています。

このように、いま、日本の食・農は多くの課題に直面しています。その課題を解決するためにも、「国消国産」はとても大切な考え方です。

JAグループは、皆さんの豊かな食生活を、そして、日本の農業を、持続可能でより良いものとするため、「国消国産」に取り組みます。皆さんも一緒に、国産の農畜産物を食べて飲んで応援して、大切な日本の食・農を、未来へつなぎませんか。

耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ

JAグループ

知る、活かす、つなぐ

～JAグループ情報共有運動～

ＪＡグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。

日本農業新聞

全国約30万部発行。
全国のＪＡが出資し、農業の専門紙では唯一の日刊紙。
農家組合員とＪＡグループ、地域をつなぐ全国メディアです。

日本農業新聞公式サイト

月間ページビュー数約90万。
農業関係者だけでなく､幅広い年代のユーザーに閲覧されています。
Yahoo!ニュース、SmartNewsなどからも多数のユーザーが流入しています。

フレマルシェ

全国約25万部発行。
ＪＡのファーマーズマーケットを中心に配布している消費者向けフリーペーパーです。メイン読者層は30代～60代の女性です。

お問い合わせ先：日本農業新聞広告部
Eメール koukoku@agrinews.co.jp　TEL 03-6281-5810

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞

"Ienohikari"
家の光

家活（いえかつ）で暮らしをグレードアップ

毎月の本誌と年6回の別冊付録で

読者の思いに寄り添い、よりよい暮らしの実現に向けた記事作りをしています

お申し込みはお近くのJAへ

定価（税込）
- 普通月号 629円
- 付録月号（1･4･5･7･9月号）922円
- 家計簿付き12月号 1,027円

つがるロマン
つがるロマン
TSUGARU ROMAN
青天の霹靂
青 天 の 霹 靂
SEITEN NO HEKIREKI
まっしぐら
まっしぐら
MASSHIGURA
青森から３つの「美味い!!」
青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp
© やなせたかし

丘みどりコンサート
予 告 版！
ほいけんた
丘みどりコンサート OKA MIDORI CONCERT 2023
と き 令和6年3月6日(水) 14:00開演(1回公演)
ところ パルセいいざか
〒960-0201 福島市飯坂町字筑前27-1
TEL 024-542-2121 FAX 024-542-2600
旅行企画・実施・お申込み・お問い合わせ先
観光庁長官登録旅行業第939号
株式会社 農協観光
TOUR
北東北支店 青森エリアセンター
TEL 017−729−8800
〒030-0847 青森市東大野二丁目1－15
総合旅行業務取扱管理者 泉澤 睦男
ボンド保証会員
旅行業公正取引協議会会員

作品紹介

●令和４年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール（図画部門）

■青森県教育委員会教育長賞
「田んぼアートとぼく」
青森市立浦町小学校
５年　木村倫都（きむらりんと）

■優秀賞（図画部門第二部）
「田植えの日のこびり（おやつ）タイム」
六ケ所村立尾駮小学校
６年　小泉多瑛（こいずみたえ）

発行所／JAグループ青森　発行人／小山　主税
JA青森中央会／JAバンク青森
JA全農あおもり／JA共済連青森
〒030-0847　青森市東大野二丁目1番地15
☎017-729-8755（JA青森中央会総務企画部総務課）
印刷所／長尾印刷株式会社
令和５年８月10日発行
定価／200円
（会員の購読料は賦課金に含まれています）
R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用